自民政治が許されるか

職場新聞、選挙で訴える

重大な衆・参両院議員同時選挙が早や終盤にさしかかり、はげしく闘われている。このとき三池のいくつかの職場新聞が、選挙問題の記事をかかげ、三池労組推薦議員候補の全員当選・保革逆転の達成への協力を求めている。次に、そのなかから二新聞の記事を参考のため紹介する。

保革逆転の意義大

四山五分会〝きずな〟の訴え

衆議院議員選挙と第十二回参議院議員選挙の焦点は、保革逆転が成るか否かである。

自民党は衆・参両院とも、これまで通り過半数の議席を確保して逆転を食いとめる、といっているが、革新側は逆転達成のため全力を集中している。

日本の国会は二院制であり、憲法によって衆院の優位制が明確にされている。例えば、予算案や、首相指名で衆議院と参議院の議決が異なった場合など、両院協議会を経て衆議院で再度審議し、その決定によって実施されることになる。しかし法律案件の場合は別で、衆・参両院の議決を必要とすることになっているので、たとえ衆議院で通過しても、参議院で否決したならば、最終的にはこの法案は廃案にならざるを得ない仕組みになっている。つまり、自民党の多数の横暴は阻止できるのである。従って、今次衆・参両院議員選挙における保革逆転の持つ意義は、われわれにとってはかり知れないほど大きい、といわなければならない。

ところで、自民党は、どんな政策をどう実行してきたか。

㈠航空機汚職事件につづくKDD事件、浜幸事件など、とどまることを知らぬ金権・汚職の政治の横行。

㈡物価対策に無為無策であるばかりか、逆に公共料金をいっせいにひきあげ、国民からの収奪を強め、他面では独占資本への財政融資を拡大している。

㈢唯一の国内資源である石炭を放棄しては、石油依存とあわせ原子力への道をすすむなど、独占資本の利益のみを考え、人類の生存を破壊しようとしている。

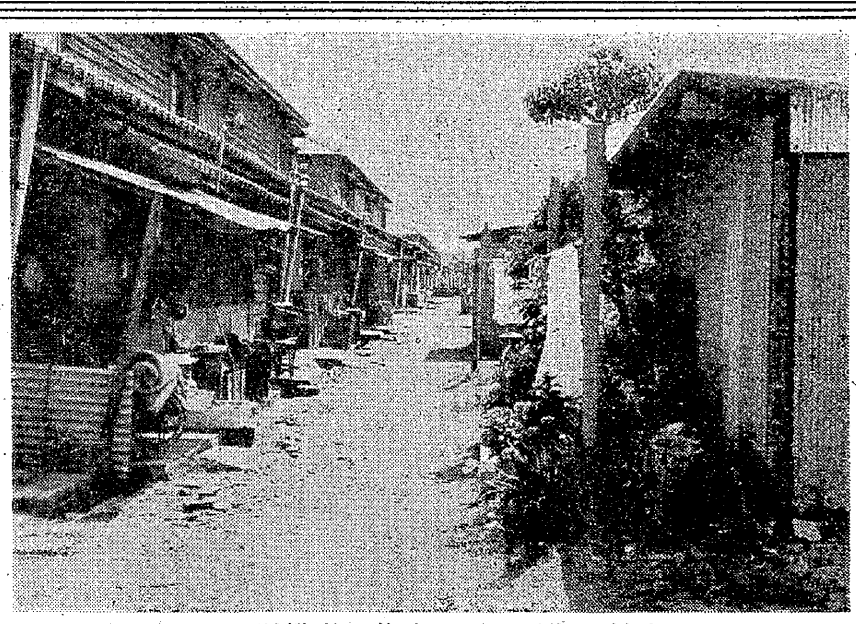
㈣反ソ宣伝を行い、有事立法の策動、軍事力増強に走り、アメリカとの軍事同盟を強め、追随。対イラン制裁、オリンピック不参加など、自主外交を棄てている。

このような、国民不在の自民政治を変えるのはあなたです。

北陸鉄道労組の機関紙。どこの労働組合も選挙の勝利目ざしがんばつている。

投書

坑外で働く哀れな労働者より



三池の労働者の住まい――それは社宅。

せめて月に一回くらい街で外食がして見たい

皆さん、次が坑外で働く私の生活実態です。

月々の給料の実態

「お父さん、なんでこんなに給料が少なかつじゃろうかネ？」

「俺が悪かつじゃなかぞ。三井さんが悪かつじゃけん、しよんなかじゃっか」

これが、いつも給料日の夫婦の会話である。どこの家庭も同じことでしょう。

私は体が弱いせいで、あまり満勤などしたことはない。だが、次に昨年の十一月分の給料と、今年の四月分のそれとを比較してみました。

▼昨年の十一月分

出勤二十二日、公休二日で計二十四方。残業二十四時間。ストライキ一日。それに特定休日一日。それで小計（総稼ぎ）十五万二千十七円。手取りでは、十二万三千円。

▼今年の四月分

出勤二十一日、有給休日三日。ストライキ一日。残業十八時間。それに特定休日一日。

それで小計十三万七千六百五十一円。手取りで十万七千円。

ちなみに、私の一日の賃金は四千九百八十一円です。

三三〇円上がっても

以上が、わが給料の実態です。サテ、これでわが家の五人の家族が生活していかねばなりません。

テレビ代	六千円
新聞代	二千円
ガス代	五千円
子供の教材費	六千三百円
電話代	二千円

その他約四千円の出費です。おっと忘れていました。ごはんを食べなくてはいけません。米代、副食代、それと子供の小遣いまで含めますと、それがバカになりません。

六十九歳になるおふくろが、失対の仕事に出て、たまに朝・晩のオカズを買ってくれるし、年金をもらったなかから幾らかの金をくれますので大助かりです。それでも、毎月二万円ほどの赤字が出ます。

もちろん、車なんかもってはいません。ただ、妻のやりくりが大変だなアと気をつかっています。

妻はいいます――「最低、お父さんの給料を月に手取りで十五、六万円くらいはほしい」と。そういって嘆くのです。たとえ三十万満勤してさえ十五万円。それには十時間ほどの残業をしなければ、そんなには稼げません。

春闘で、三百二十円くらい賃金が上がったとて、何の役にも立ちません。といいますのは、坑外で働いている者には、三百二十円は二百七十円くらいしか上がらない計算だからです。

時には街で外食を

私たちは、余分なお金は要らないのです。一応、満足して生活できるだけの賃金がほしいのです。欲をいうならば、月に一回でいいから街で外食し、月に一万円でいいから貯金できるくらいのものがほしいのです。

こんな私の考えは、欲ばりなことでしょうか。皆さんも、私の考えときっと同じだと思います。私のほかにも、賃金の低い方がたくさんいます。まして組夫の皆さん方など、たとえストライキをやって見ても賃金は上がりません。

やっぱり労働者はひとつの輪になり、そしてみんなで闘わなければ、とても、本当の幸福はこないことを私は信じています。

まだまだ書きたいことはたくさんあります。一日も早く、豊かなしあわせがくるように願っている次第です。

×

なお右の文には、証拠品――〝給料明細〟（昨年の十一月分と今年の四月分）が添えられていました。事実は文にある通りですが、その分は割愛させていただきました。

――編集部

依然悪い保安や環境

「会社は対策を真剣に考えよ」

各職場新聞が強く要求

梅雨が明けると、次に酷暑がやってくる。すると、例によって坑底の高温問題がきっとたぎり立ってくることだろう。この前ぶれでもあるかのようにして、各職場新聞が職場の保安問題や環境などの改善を要求する記事を掲げている。裏を返せば、三池炭鉱の職場が坑の内外ともいまだに劣悪だということを証明しているわけで、会社も対策についてもっと真剣に考えるべきだ。

風呂場が何とかならんか

Aさん　俺どんが残業して風呂に入るときは、いつも湯が汚れてしもうとる。社宅の風呂に入るとよかばってん、体は汗で汚れとるし、会社の風呂に入らんわけにはいかんもんナ。温泉とはいかんまでもお湯のフチを越すごたる風呂に入ろごたる。

Bさん　下駄を浴槽のすぐそばにぬぎすてて入ったり、汗と炭で真っ黒になったまま、上がり湯にザブン。これでは、われわれ坑外の者はたまらん。不愉快になるようなことはみんなもつつしみ、節度をもってほしいものだ。

それにしても、浴槽のなかがわびしく、暗くなったと思ったら、省エネとかで螢光灯を半分にへズられとる。

湯もきたなく、そして熱かったりぬるかったり。湯垢のくさったようなにおいや、先日など消毒のためか、ホルマリン見たいなにおいが鼻をついた。

かかり湯も冷水とは別に、以前のように、温水シャワーがほしいものだ。

×

右は三川・坑外職場の新聞〝はぐるま〟（NO・一三二。五月二十八日発行）の記事。

休憩所を涼しくできんか

かと思うと四山職場四分会新聞〝あしおと〟（NO・四二。五月二十九日発行）は、「本層東五片払の自走枠常一の休憩所は三十二度もあり、ただ座っていても汗が体からふき出す」事実を伝え、何とかしてくれ、と訴えている。

告発や要求は際限がない。

もち出す志願兵制

港務指導部〝みち潮〟の訴え

江崎前通産相は、関西経済連合会など三団体共催の講演会で防衛問題に触れ、「私案だが、志願兵制度を検討すべきではないか」、と提唱した。

港務所においても、新入社員は自衛隊に、研修会として教育入隊させています。こんな一方的な教育は許しがたいことです。

社会党は、自衛隊を国土建設隊に切りかえていく主張をしていますが、江崎前通産相はこれを逆か手にとり、若い者を、大学・高校卒業後の一、二年間、自主的に国のために奉仕させ、奉仕を終えた者は企業が優先的に採用すれば、若い人は喜んで入社できるだろうと発言している。

われわれ労働者は、今度の衆・参両院議員選挙で自民党を倒し、働く者の世界を実現しようではありませんか。